

## 平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立御幸 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成27年4月21日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第4学年 国語 64人 算数 64人 理科 64人

第5学年 国語 73人 算数 73人 理科 73人

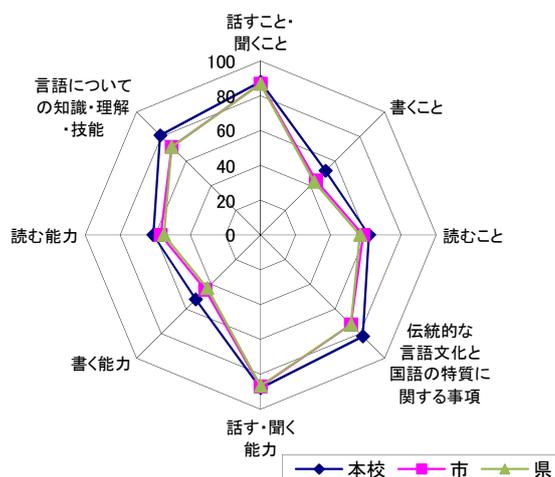
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立御幸小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	88.0	87.0	86.7
	書くこと	52.3	44.5	43.1
	読むこと	61.7	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.4	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	88.0	87.0	86.7
	書く能力	52.3	44.5	43.1
	読む能力	61.2	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	81.0	71.7	71.7



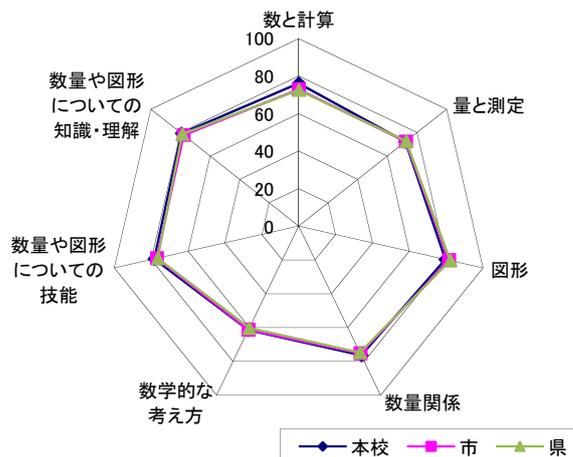
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は、88.0%で、県平均より1.3ポイント、市平均より1.0ポイント高く、ほぼ同じである。話し合いの内容の聞き取りの問題では、90%以上の児童が、話の中心に気をつけて聞くことができていた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と相手との考えの共通点や相違点を整理しながら聞くよう指導していく。</li> <li>・朝の学習の時間や帰りの会で、スピーチをしたり質問をしたりする時間を設ける。</li> </ul>
書くこと	○領域の平均正答率は、52.3%で、県平均より9.2ポイント、市平均より7.8ポイント高い。書くことすることの中心を明確にして記述することは、県平均より13.3ポイント高かった。お礼の手紙を書き直す問題では、正答率は県平均より7ポイント高かったが、32.0%だった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことを明確にして書くことを、他教科や様々な活動で取り入れていく。</li> <li>・手紙を書くときには、適切な順序と言葉づかいに気をつけて書くことができるよう指導していく。</li> </ul>
読むこと	○領域の平均正答率は、61.7%で、県平均より5.1ポイント、市平均より3.2ポイント高い。説明文の内容を読み取ることは86%、物語文の登場人物の気持ちを想像して読むことは82%の児童ができていたが、物語の場面の移り変わりを読み取ることは県平均より正答率が低かった。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物語の場面の移り変わりに注意して内容を読み取る指導をしていく。</li> <li>・朝の読書の時間を充実させると共に、ドリルを活用して内容を読み取る力をつけていく。</li> </ul>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域の平均正答率は、82.4%で、県平均、市平均より9.3ポイント高い。漢字の読み書き、ローマ字の正答率は、市、県の平均をかなり上回る。反対の意味の言葉の理解は、県平均とほぼ同じである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字は生活の中で進んで使えるように、作文や日記を書くときに指導していく。</li> <li>・言葉集めや辞書活用などを通して、言語への興味関心をさらに高めることができるようにする。</li> </ul>

# 宇都宮市立御幸小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	76.1	72.9	72.6
	量と測定	72.1	72.4	72.6
	図形	79.5	81.4	82.1
	数量関係	76.4	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	61.4	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	78.4	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	79.2	77.8	78.8



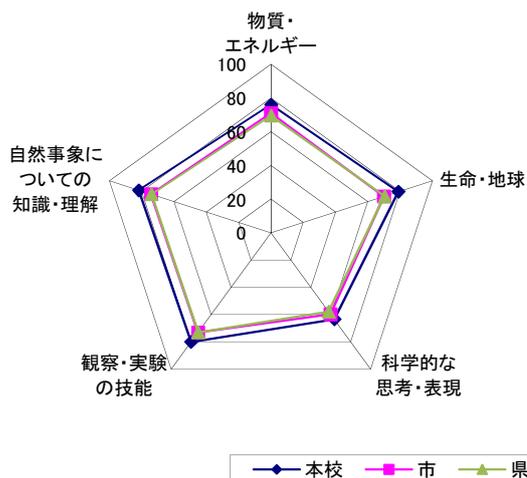
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○領域の平均正答率は76.1%で、県平均より3.5ポイント、市平均より3.2ポイント高い。 ●「4位数—4位数(繰り下がりが2回)」 「数の相対的な大きさ」についての問題の正答率が、県平均よりも低かった。	・計算問題は、全体的にできていたので引き続き、朝の学習や宿題などで習熟を図っていく。 ・大きい数、小数、分数のしくみを復習し、プリント学習などで定着を図る。
量と測定	○領域の平均正答率は72.1%で、県平均より0.5ポイント、市平均より0.3ポイント低い。 ●時刻と時間についての問題の正答率が、県平均より5ポイント低かった。	・生活の中で、時刻と時間を意識させるようにする。特に時間の感覚を養い、練習問題などで定着を図る。 ・長さや重さなど、生活の中で意識させたり、他教科との関連を図ったりして定着を図る。
図形	○領域の平均正答率は79.5%で、県平均より2.6ポイント、市平均より1.9ポイント低い。 ●球の半径と直径について問題の正答率が、県平均より11.2ポイント低かった。	・球の半径と直径について復習し、定着を図る。 ・円や二等辺三角形、正三角形の定義を再確認し、具体的な操作を取り入れたり、作図したりして、図形に親しませ理解を深めさせる。
数量関係	○領域の平均正答率は76.4%で、県平均より1.8ポイント、市平均より1.2ポイント高い。 ●口を使った文章問題を表した図を選ぶ問題の正答率が、県平均より4.4ポイント低かった。	・文章問題を口を使った式に表わしたり、口を使った式を文章問題に表したりする学習を繰り返して、定着を図る。 ・社会などの他教科との関連を図り、棒グラフや折れ線グラフの読み方や表し方に慣れさせていく。

# 宇都宮市立御幸小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	76.1	71.1	69.6
	生命・地球	79.0	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	63.5	59.8	57.8
	観察・実験の技能	80.1	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	81.9	74.3	74.0



## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は76.1%で、県平均より6.5ポイント、市平均より5.0ポイント高い。 ●違う姿勢で体重計に乗ったら重さがどうなるかの問題の正答率は県平均よりも7ポイント下回った。 ●10円玉(銅)の性質を利用して仲間分けする問題では、県平均より5.5ポイント下回った。	・「風やゴムのはたらき」「光のせいしつ」「磁石のせいしつ」「電気の通り道」の領域は、興味や関心が高いので、知識がよく身に付いている。今後も興味・関心がさらに高まるように、授業での実験、観察などに取り組ませていく。 ・学習して身に付いた知識が生活の中でも生かせるように、場を設定して指導していく。
生命・地球	○領域の平均正答率は79.0%で、県平均より8.7ポイント、市平均より9.0ポイント高い。 ●虫眼鏡の正しい使い方の問題では、正答率が県平均より9.8ポイント下回った。	・生き物や自然についての知識はよく身に付いている。さらに、観察や調べ学習の場を設け、知識を広げるようにする。 ・植物や虫の観察をするときに、虫眼鏡の使い方を再確認する。

## 宇都宮市立御幸小学校 第4学年児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学校や家での学習について

●家で授業の復習をしている、テストで間違えた問題について勉強している、学習に進んで取り組んでいる、と回答した児童の割合が、市、県の平均より10ポイント以上下回っている。家で宿題をしていると回答した児童は、市平均とほぼ同じ割合なので、決められたことはきちんとやるが、自分から進んでやるのが難しいようである。自主学習ができるように、やり方を教えたり、例を示したりして進んでできるよう改善を図っていく。

○勉強していて「ふしぎだな」「なぜだろう」と感じるがあると答えている児童の割合が88.5%で、市や県の平均を上回っている。授業で疑問に思ったことが学習意欲につながるように、調べ学習や友だちとの話し合いなどを、今まで以上に授業に取り入れていくようにする。

生活について

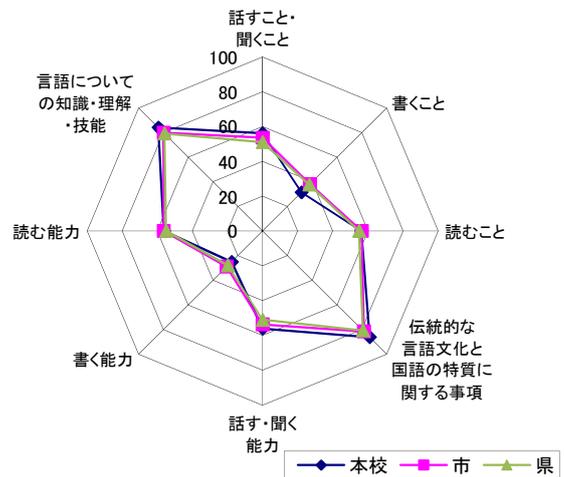
●携帯電話・スマートフォンを持っていない児童の割合が68.9%で、市、県の平均と比べてほぼ10ポイント下回っているが、フィルタリングや危険性については保護者に情報提供をしていく必要がある。

○学校の決まりを守っていると答えた児童の割合は、96.7%で、市、県の平均より6ポイント高く、きまりよい学校生活を送っていると思われる。

# 宇都宮市立御幸小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	56.1	53.6	51.0
	書くこと	31.4	38.1	37.6
	読むこと	56.3	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	86.3	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	56.1	53.6	51.0
	書く能力	25.0	29.0	28.0
	読む能力	56.3	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	84.1	79.9	79.1



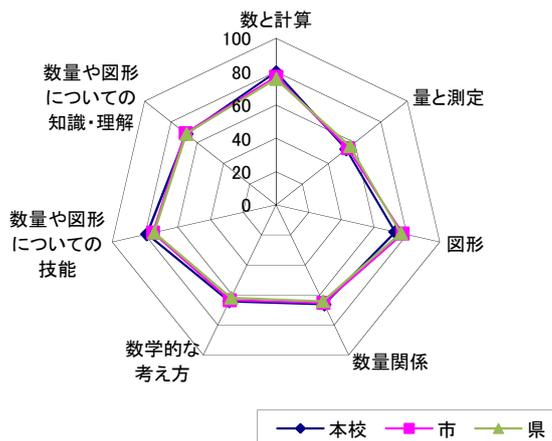
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は56.1%で、県平均より5.1ポイント、市平均より2.5ポイント高い。 ○話し手の話し方の工夫に気を付けて聞き取る設問の正答率は、県の正答率よりも12.1ポイント高い。話し合いの内容の聞き取りに、一定の成果が見られた。	・学習する中で話し合いを行うときに、話し手の意図や工夫を考えながら聞くことができるようにする。また、必要に応じて、メモの取り方も指導していく。そして、話し合いの中で役割を固定することなく、話し手や聞き手、司会者など、それぞれの立場に立って話し合いに参加できるようにしていく。
書くこと	●領域の平均正答率は31.4%で、県平均より6.2ポイント、市平均より6.7ポイント低い。 ●条件に合わせて記事を書くということが課題であるが、特に、3段落構成で文章を書くという条件を満たしていない解答が多かった。	・段落構成を意識しながら、指定された文字数で文章を書く機会を増やしていく。また、国語科はもちろんのこと、他教科でも、文章を書く機会を設けていく。
読むこと	○領域の平均正答率は56.3%で、県平均より1.3ポイント高く、市平均より0.1ポイント低い。 ○物語文の読み取りで、叙述をもとに場面の様子を読み取る設問の平均正答率は、県の正答率よりも11.5ポイント高い。 ●説明文の読み取りで、段落相互の関係をとらえる設問の平均正答率は、県の正答率よりも2.9ポイント低い。	・説明的な文章の学習において、文章の話題、具体や抽象、構成の仕方や叙述などに注意しながら、文章の段落相互の関係を捉えることができるよう指導していく。また、序論・本論・結論それぞれの役割についても理解できるようにしていく。 ・朝の学習では、読書に加えて読み取りの問題にも取り組み、たくさんの文章に触れることができる機会を設ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○領域の平均正答率は86.3%で、県平均より5.4ポイント、市平均より4.7ポイント高い。 ○漢字の読み書きでは、読みについての正答率は、ほぼ県平均と等しく、書きについての正答率は、県平均より高い。 ●言葉の学習では、慣用句の使い方や読点の打ち方についての正答率が、県平均より低い。	・漢字の読み書きについては、ドリルを活用しながら繰り返し学習を行い、テストや宿題などで定着を図っていく。 ・文章を書くときには、既習漢字を適切に使うよう指導する。 ・国語辞典の活用を図り、言葉に関心を持てるようにする。

# 宇都宮市立御幸小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.7	77.0	75.6
	量と測定	53.6	54.8	56.5
	図形	72.9	77.4	76.3
	数量関係	66.3	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	64.2	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	78.9	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	68.3	69.1	68.4



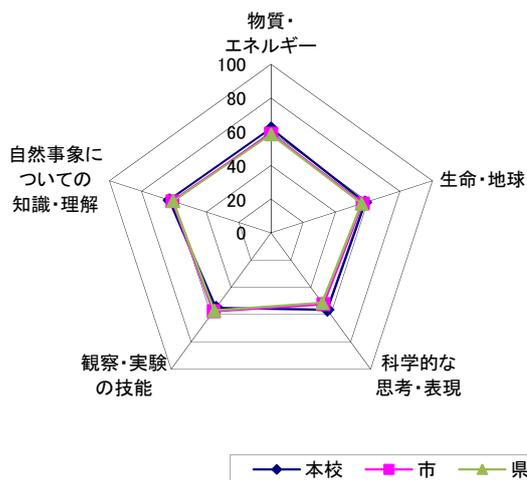
## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○この領域の平均正答率は79.7%で、市平均より2.7ポイント、県平均より4.1ポイントそれぞれ高くなっている。 特に分数の計算や小数に整数をかける計算の技能に定着が見られる。 ●小数の相対的な大きさの理解については、県の平均よりも2.9ポイント低く、小数の仕組みについての理解に課題が見られる。	・計算の技能は定着が見られるので、引き続き朝のぐんぐんタイムや、授業の始めを利用して、繰り返し計算練習を行っていく。
量と測定	●領域の平均正答率は53.6%で、市平均よりも1.2ポイント、県平均より2.9ポイント低い。 特に面積の $m^2$ と $cm^2$ の単位の関係の理解については、県平均より14.2ポイント低かった。 ○正方形の面積や角の大きさの検討をつける設問については、県平均よりもやや高かった。	・面積の単位については、1辺の長さを単位換算することと関連付けた指導をしていく。 ・生活の中で角の大きさや面積を意識させる場面を作ったり、繰り返し問題に取り組んだりしていくことで定着を図っていく。
図形	●この領域の平均正答率は72.9パーセントで、市の平均より4.5ポイント、県平均より3.4ポイントそれぞれ低い。 特に、四角形の対角線の性質や、直方体の展開図についての理解に課題が見られる。	・四角形の対角線の意味や性質について復習し理解を深める。 ・実際に見取り図や展開図をかく活動を通して、展開図は一通りではなくいくつかの表し方があることに気付かせる。
数量関係	○この領域の平均正答率は66.3%で、市の平均よりも1ポイント、県平均よりも2ポイント高くなっている。 特に棒と折れ線の複合グラフの読み取りの設問は、県平均よりも15.9ポイント高い。計算のきまりや変わり方を調べる設問も、県平均より10ポイント以上高かった。 ●伴って変わる二つの数量の関係を式に表す設問では、県平均より8.1ポイント低い。	・伴って変わる二つの数量の関係について、□や△などの記号を用いて式に表すことよさに気付かせ、数量の関係についての理解を深める。

# 宇都宮市立御幸小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.0	59.0	58.3
	生命・地球	58.3	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	56.5	52.5	51.4
	観察・実験の技能	55.1	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	62.9	61.0	60.6



## ★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○領域の平均正答率は、62.0%と、市や県の平均より3ポイント以上上回っている。特に、風船を入れて閉じ込められた空気を圧す時の、風船の体積の変化を推測する設問は、県平均より、15.7ポイント高い。熱せられた水の移動についての設問では、県平均を10ポイント以上上回った。 ●金属、水、空気と温度についての設問では、水が氷になると体積が増えることへの理解が、県平均より7ポイント以上低い。また、電気のはたらきで、直列つなぎは電流が強くなること、乾電池の配置によらず2個の乾電池の直列つなぎの作図については県平均を14ポイント下回った。	・領域全般にわたり思考・判断・表現や知識・理解が定着している。今後も学習したことが生かせるよう継続して指導していく。 ・電気のはたらきでは、「直列つなぎ」と「並列つなぎ」について、実験などの実際の活動に加え、適切な説明ができるようにしていく。
生命・地球	○領域の平均正答率は、58.3%で、県の平均を2ポイント程上回っている。特に、一日の気温の変化の様子から天気を推測する設問や、水の蒸発についての設問では、県の平均をそれぞれ10ポイント以上上回った。また、方位磁針の正しい使い方や、月や星の動きについての設問でも、県の平均を10ポイント以上高かった。 ●月と星の設問では、星座早見の持ち方や使い方の技能面での課題が見られる。	・天気の様子や月と星については、興味・関心が高い。今後も実際に観察する機会を持ったり、デジタル教材などの映像資料を活用したりして知識の定着を図る。

## 宇都宮市立御幸小学校 第5学年児童質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学校や家での学習について

●家で学校の予習、復習をしているという質問に対して、共に市や県の平均を10ポイント以上下回っている。特に復習については約20ポイント程低くなっている。また、宿題の他に自分で考えた勉強をしていると言う質問に対しても、20ポイント以上低くなっている。宿題だけでなく自主的に家庭学習に取り組めるよう、具体的に学習方法を示したり、家庭に協力を呼びかけたりして改善を図っていききたい。

○家で勉強するときに、だいたい同じ時刻に取り組むようになっている児童は、82.9%と市や県の平均を15ポイント以上上回っている。家庭学習の習慣化が図れているので、さらにここに予習、復習などの学習を加えていけるよう指導していききたい。

●友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意だと考えている児童は、市や県の平均より9ポイント低くなっている。クラスは発言しやすい雰囲気だと考えている児童が市や県を5ポイント以上上回っているため、自信を持って発言できるような声かけや励ましの言葉を増やしていきたい。

生活について

●携帯やスマートフォンを持っている児童のうち、見てはいけないサイトにつながらないようにしていると答えた児童は30パーセントと低く、分からないと答えた児童は40パーセント以上となっている。携帯やスマートフォンのフィルタリングの必要性や使用方法、危険性などについて児童だけでなく保護者への情報提供を積極的に行い、適切な使用について周知していききたい。

○100%の児童が、人と話すことは楽しいと感じている。友達と積極的に関わることで、より楽しい学校生活が送れるものと思われる。○自分は家族の大切な一員だと思うという質問に対しては、県の平均を5ポイント以上上回っている。